

「コロナの中で」④	オンライン版「子育てサロン」を開始 今年、出産したママのために	2
都島区	「毛馬コーポ」の「ゆゆうクラブ」全国の頂点に輝く 「厚生労働省」健康寿命をのばそう「アワード」	3
中央区	地域との新たななかかわりを生む「地域WEB勉強会」 タブレット端末で地域と区社協の情報共有を加速	8
港区	オンライン講演会つながりや居場所の大切さを共に考える やりがいのある、福祉のえんとこ「伝えます」	9
施設協	学校と施設のWEB懇談会の開催	10
西成区	想いよ届け！Zoomで初の生配信！ 音楽ボランティアの生演奏	11
天王寺区	「ゆづあいカフェへようこそ」 地域サロンボランティア連絡会で模擬喫茶を体験	12
はじめまして！こんにちは	認定NPO法人グッドネーバース・ジャパン 「お腹を満たし、こころを満たす子ども支援」 市社協市を超えてオンラインで実践交流	

大阪の 社会福祉

2021.1

788

The social welfare
in OSAKA

大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>

令和3年

年頭あいさつ

社会福祉法人
大阪市社会福祉協議会

はるよし

会長 宮川 晴美

新年あけましておめでとうございませう。

皆さま方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は、猛烈な勢いで世界中に広がった新型コロナウイルス感染症が、日本でも拡大し、外出自粛や経済活動の停滞により、日常生活に大きな影響をもたらしました。本会及び区社会福祉協議会では、生活福祉資金の特例貸付や住居確保給付金が拡充適用され、困りごとを抱える人々への相談に全職員で対応してまいりました。

また、地域では、ふれあい喫茶や会食等の中止が相次ぎ、住民の交流や見守り活動が制限される状況が、今なお続いております。その中で、住民相互のつながりを絶やさないために、孤立しがちな高齢者や障がい者等に対して電話による安否確認や配食を通じた見守り活動の推

進、新たなつながり方の創出に積極的に取り組むとともに、「今できること」を住民と共

に考える一助として、「コロナの中でもつながる方法」と題した冊子を作成するなど、地域福祉の活動を支援しております。

令和3年度は「第2期大阪地域福祉活動推進計画」を策定し、複雑化する課題に対応すべく、国の政策動向や地域住民の暮らしを取り巻く状況の変化を踏まえ、多様な主体との協働による地域福祉の取り組みを計画的に進めてまいります。

本年も「一人ひとりの人権が尊重されるやさしさとぬくもりのある福祉によるまちづくり」の実現に向け、各区社会福祉協議会との連携を図り、役員一同、広く市民の皆さまに信頼される「社協」をめざしてまいり所存でございます。

年頭にあたり、各区・各地域社会福祉協議会、民生委員・児童委員、主任児童委員、社会福祉施設、企業、NPO並びにボランティアの方々をはじめ、市民の皆さまに一層のご支援・ご協力をお願いいたしますとともに、皆さま方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、新年のごあいさついたします。

HB

脳梗塞で倒れた50代の知人に久しぶりの生活、リハビリから

やっとなり帰ったのだ。杖を突いて歩いているが、表情は明るく、本当に良かったと思つた。ところが、おっさんなのに髪の毛を伸ばして、後ろでまとめて括っている。あまりにも似合っていないので、その心境の変化を聞いた。だした話になつた。たぶん、入院中お世話の気持ちや伝えられる活動はないかと考えた時、「ヘアドネーション」に出会つたというのだ。がんの治療などで髪の毛をなくした人に、かつらを贈る市民運動だ。これなら寝たままでできると、髪を伸ばし始めたのだとか。「そんな白髪の混じった髪なんか」と言ったら、「それがちようどの高齢者もいる」と、さらに明るく返事が返ってきた。ボランティアは誰でもできる。募金とはと異なり、低開発国の子どもの医療のための切手の収集やチャリティランなど、お金がなくても、専門性がなくても、それこそ寝たきりでも、誰もが自分のできることで参加できるボランティアがある。復活した、似合わないロングヘアのおっさんに教えられた。(石)

コロナの中で④

このコーナーでは

新型コロナウイルスの影響下において地域福祉に関わるさまざまな「人」に焦点を当てて、インタビューを通して、その人ならではのストーリーや思いに迫ります。

お母さんたちの
ストレスフルに驚き!?

森田さんは、PTA時代の先輩に頼まれて、2013年



港区主任児童委員連絡会

代表 森田春美さん

プロフィール：2013年、主任児童委員に就任。子育てサロンの運営ほか、「港区みんなと子育てしチャオ会」のメンバーとして区のイベントにも参画。中高生の未来をサポートするNPO法人設立を目標に、キャリアコンサルタントの資格取得をめざす。3児の母、「週末里親」。

に港区弁天地域で主任児童委員の活動を始めた。「こどもたちも私も、同じ小・中学校の出身で、こどもが卒業しても地域のこどもたちのために何かできたら、と思いました」。

森田さんが運営している未就学児を対象にした子育てサロンは、忙しいお母さんが、ほっこりできる、やりたいことができる居場所だ。1回に10〜15組ほどが訪れ、習い事をしたります。クリスマスのときは35組ほどで賑わう。



「トライ＆エラーで心地のいい方向に進んでいきたい」森田さんの言葉は、取材に立ち会った区社協職員の心にも響いた

子育てサロンを開いて驚いたことがある。「最初、『夫が子育てを手伝ってくれない』といったママ同士の話を聞いて、子育てにストレスというのがしっくりきませんでした」。森田さんの子育て環境が恵まれていた。「実家は目と鼻の先でいつでもこどもを預けられ、実妹2人もこどもを可愛がり、夫は子煩悩で休みの日はいつも面倒を見てくれました」。

「不要不急の…」に
カチン！

緊急事態宣言が発令され、

オンライン版・子育てサロンを開始 —今年、出産したママのために—

メディアで繰り返し返される「不要不急の外出は控えてください」という言葉に森田さんはカチンときた。「私たちの活動は」確かに不急、でも不要じゃないでしょ。不要だったら収まってもやらなくていいやん」。

一方で気になったのは、今年、出会うはずだった母親たちのこと。「既にサロンに来ていた人はママ友とSNSでつながっている。今年、出産したお母さんたちは孤立していないかな?」。

活動の「必要性」を確信した森田さんは、緊急事態宣言が解除された直後の5月28日には、まずは有志で「オンライン子育てサロン」を開設。無料ソフトでホームページを作成した。「閉じこもっていると、発達のことや子育てに対する不安ばかりがつのります。そんなとき『しんどい』と口にするだけでも楽になります。リラックスして話せるようにお母さん側は画面をオフ、音声だけでおしゃべり。リアルな子育てサロンでは十分に聴けなかったお母さんの悩みを受けとめられたのは大きな収穫でした」。

オンライン子育てサロンは、9月から主任児童委員主催となり、徐々に参加者が増えている。



昨年「港区みんなと子育てしチャオ会」が主催した『みなとキッズ』は、区民センターで開かれた

つながっている。今年、出産したお母さんたちは孤立していないかな?」。

活動の「必要性」を確信した森田さんは、緊急事態宣言が解除された直後の5月28日には、まずは有志で「オンライン子育てサロン」を開設。無料ソフトでホームページを作成した。「閉じこもっていると、発達のことや子育てに対する不安ばかりがつのります。そんなとき『しんどい』と口にするだけでも楽になります。リラックスして話せるようにお母さん側は画面をオフ、音声だけでおしゃべり。リアルな子育てサロンでは十分に聴けなかったお母さんの悩みを受けとめられたのは大きな収穫でした」。

自分の足で 立てる大人に

正義感、思いやり、スピーディな行動力を持つ森田さんだが、「思いが強いゆえに周囲を振り回しているのではないか」という自身の一面に懸念があった。そこで、スムーズなコミュニケーションができるようにコーチングのスキルを学んだ。それから人の話を「あ、そうなんやね」と受けとめられるようになったという。

コロナ禍は、成人した森田さんのこともたちが一堂に揃



月1回の子育てサロンは、母親たちの心の拠り所になっている
(写真はコロナ前の様子)

リーダーシップを自分でとれる人になってくれたら」という強い思いを抱いている。実は、森田さん自身、子どもたちを支援する「NPO法人設立」という夢がある。未来から今をみて、夢の実現に必要なキャリアコンサルタントの国家資格取得をめざして奮闘中だ。

い、幸せな時間を過ごしたという。このときも、「就活している長男からベンチャー企業の内定をもらったと聴いて『おめでとう!』という」と、『そこでホンマにいいのとかないん?』と物足りない様子で、『働くのはアンタやからね』という少し驚いていましたね。

森田さんは、週1回、中学校で地域の居場所づくり活動にスタッフとして関わっている。そこで出会う中学生に対して『今の成績から将来を決めるのではなく、未来から今を見てほしい。自分の人生の

都島区

「毛馬コーポゆうゆうクラブ」 全国の頂点に輝く

「厚生労働省「健康寿命をのばそう!アワード」

厚生労働省が推進する「スマートライフプロジェクト」の一環として開催された「第9回健康寿命をのばそう!アワード(介護予防・高齢者生活支援分野)」で、都島区淀川地域のマインシヨンのグループ「毛馬コーポゆうゆうクラブ」が、全国一位の荣誉に輝いた。

エントリーにあたっては、各区社協の生活支援コーディネー

ターから寄せられた事例を、大阪市が推薦。全国各地から集まった事例が、企業部門、団体部門、自治体部門ごとに審査され、計17件が受賞。

団体部門の老健局長優良賞として、男性による共同菜園「鶴見区シニアボランティアアグリ」も

名を連ね、大阪市内の生活支援体制整備事業で支援する2団体を受賞するという快挙となった。

表彰式は、11月30日にオンライン上で開催され、講評では「毛馬コーポゆうゆうクラブは、都市部の大規模マンション。どこからの補助金もなく、住民が動き出し、コーラスサークル、在宅医療勉強会、有償ボランティア活動など、非常にきめ細かく、分厚く重層的な活動を展開している。これから進むべき、生活支援・介護予防の到達点の姿を示してくれた」と惜しめない賛辞が贈られた。

毛馬コーポゆうゆうクラブでは、コロナ禍でのZoomを使ったつながりづくりにもチャレンジしており、12月11日に開催された大阪市地域包括ケアシ



毛馬コーポゆうゆうクラブのメンバーと活動を支える専門職の皆さん

システム推進研修会でも事例報告されている。都島区社協・生活支援コーディネーターの佐々木さやかさんは、「地域の方が自ら課題を見つけ、その解決のために動く。そんな素晴らしい活動が評価されたことが心から嬉しい。医師、看護師、ケアマネジャーらの専門職が関わりながら、住民主体を大切にしています。これからも住民の方が自ら答えを出せるような支援をしていきたい」と話す。

都島区、鶴見区の両取組みの概要(スライド資料)は大阪市ホームページにも掲載されている。



<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushi/page/0000519965.html>

第9回健康寿命をのばそう!アワード<介護予防・高齢者生活支援分野> 大阪市内の受賞事例

厚生労働大臣 最優秀賞 (企業部門、団体部門、自治体部門の総合一位)
毛馬コーポゆうゆうクラブ(都島区)「学び合い助け合う長屋型大規模マンション」

厚生労働省老健局長 優良賞 団体部門
鶴見区シニアボランティア アグリ「男性シニアボランティアグループがこども食堂等へ野菜を提供。さらに他分野でも特技を発揮中!」

令和3年 元旦



社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

会 長 宮川 晴美
副会長 清水 弘
永岡 正己
吉川 郁夫
倉光 愼二



社会福祉法人 大阪市北区社会福祉協議会	会長 小玉 始
社会福祉法人 大阪市福島区社会福祉協議会	会長 矢山 英夫
社会福祉法人 大阪市中央区社会福祉協議会	会長 浦野 皖次
社会福祉法人 大阪市港区社会福祉協議会	会長 武智 虎義
社会福祉法人 大阪市天王寺区社会福祉協議会	会長 中野 明男
社会福祉法人 大阪市西淀川区社会福祉協議会	会長 大垣 純一
社会福祉法人 大阪市東淀川区社会福祉協議会	会長 吉田 正則
社会福祉法人 大阪市生野区社会福祉協議会	会長 多田 龍弘
社会福祉法人 大阪市城東区社会福祉協議会	会長 高木 正博
社会福祉法人 大阪市阿倍野区社会福祉協議会	会長 永岡 正己
社会福祉法人 大阪市住吉区社会福祉協議会	会長 山下 保一
社会福祉法人 大阪市平野区社会福祉協議会	会長 田中智偉子

社会福祉法人 大阪市都島区社会福祉協議会	会長 前田 起平
社会福祉法人 大阪市此花区社会福祉協議会	会長 宮川 晴美
社会福祉法人 大阪市西区社会福祉協議会	会長 笹野井庸夫
社会福祉法人 大阪市大正区社会福祉協議会	会長 川上 満
社会福祉法人 大阪市浪速区社会福祉協議会	会長 北口 武司
社会福祉法人 大阪市淀川区社会福祉協議会	会長 三田 和夫
社会福祉法人 大阪市東成区社会福祉協議会	会長 清水 弘
社会福祉法人 大阪市旭区社会福祉協議会	会長 宮本 正路
社会福祉法人 大阪市鶴見区社会福祉協議会	会長 中田 俊二
社会福祉法人 大阪市住之江区社会福祉協議会	会長 中野紀久雄
社会福祉法人 大阪市東住吉区社会福祉協議会	会長 川本 公夫
社会福祉法人 大阪市西成区社会福祉協議会	会長 住谷 誠次

支えあう 住みよい社会 地域から 大阪市民生委員児童委員協議会 会 長 吉 川 郁 夫 副会長 四 宮 政 利 副会長 一本松 三 雪 副会長 山 本 眞 路 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電 話 6 7 6 5 - 5 6 0 9 F A X 6 7 6 5 - 5 6 0 3		社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 会 長 井手之上 優美 副会長 西 兼 和 彦 副会長 大 吉 豊 和 桂 常務理事 新 田 中 〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54 電 話 6 7 6 2 - 9 4 7 1 F A X 6 7 6 4 - 5 3 7 4 http://www.osakafusyakyo.or.jp
大阪市社会事業施設協議会 会 長 倉 光 愼 二 (大阪市地域福祉施設協議会) 副会長 中 西 裕 (大阪市児童福祉施設連盟) 副会長 近 藤 適 (大阪市保育連合会) 副会長 後 藤 静 男 (大阪市老人福祉施設連盟) 副会長 川 端 均 (大阪市生活保護施設連盟) 副会長 山 内 泰 典 (大阪市障害児・者施設連絡協議会) 【事務局】 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電 話 6 7 6 5 - 5 6 0 6 F A X 6 7 6 5 - 5 6 0 7		赤い羽根共同募金 社会福祉法人 大阪府共同募金会 会 長 宮 川 晴 美 〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54 大阪社会福祉指導センター 2階 電話 6762-8717 F A X 6762-8718 http://www.akaihane-osaka.or.jp
一般財団法人 大阪市身体障害者団体協議会 会 長 手 嶋 勇 一 川 越 利 信 廣 田 しづえ 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電 話 6 7 6 5 - 5 6 3 6 F A X 6 7 6 5 - 7 4 0 7 http://shishinkyo.o.oo7.jp	公益社団法人 大阪市ひとり親家庭福祉連合会 会 長 北 玲 子 〒531-0071 大阪市北区中津1-4-10 大阪市立愛光会館内 電 話 6 3 7 1 - 7 1 4 6 F A X 6 3 7 1 - 6 7 2 2 http://www.hitoren-osaka.org/	一般社団法人 大阪市児童福祉施設連盟 会 長 中 西 裕 児童養護施設 母子生活支援施設 児童自立支援施設 乳児院 児童心理治療施設 福祉型障害児入所施設 児童発達支援センター 事務局 社会福祉法人 大念仏寺社会事業団 〒547-0045 平野区平野上町1-7-3 電話 6791-5410 F A X 6791-7774
一般社団法人 大阪市私立保育連盟 会 長 近 藤 適 会員一同 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電 話 6 7 6 1 - 1 1 7 1 http://o-shihoren.or.jp/	一般社団法人 大阪市老人福祉施設連盟 代表理事 後 藤 静 男 〒543-0021 天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電 話 6 7 6 5 - 3 6 1 1 F A X 6 7 6 5 - 3 6 1 2	大阪市生活保護施設連盟 会 長 川 端 均 会員一同 事務局 救護施設 平和寮 内 〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町3-4-27 電 話 6 6 2 8 - 6 1 5 1 F A X 6 6 2 8 - 0 4 4 1
特定非営利活動法人 大阪市地域福祉施設協議会 会 長 倉 光 愼 二 会員一同 〒557-0004 西成区萩之茶屋2-9-2 わかき保育園内 電 話 6 6 3 3 - 2 9 6 5 F A X 6 6 3 3 - 2 9 7 0	大阪市障害児・者施設連絡協議会 会 長 山 内 泰 典 事務局 此花区障がい者基幹相談支援センター 風の輪 内 〒554-0021 大阪市此花区春日出北1-1-4-101 電 話 6 4 6 1 - 5 0 5 5 F A X 6 4 6 1 - 5 0 5 6	のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを 一般社団法人 大阪市老人クラブ連合会 理事長 野 口 一 郎 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター3階 電 話 4 3 0 4 - 8 5 5 5 F A X 4 3 0 4 - 8 5 5 7
障がいのある人が安心して心豊かにすごせるように 社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会 理事長 小 泉 いと子 役員・会員一同 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電 話 6 7 6 5 - 5 6 2 1 F A X 6 7 6 5 - 5 6 2 3	社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター 理事長 鈴 木 恒 彦 南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関) わかば(医療型障害児入所施設・短期入所事業) ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業) いぶさ(特定相談支援事業・障害児相談支援事業) フェニックス(医療型障害児入所施設・療養介護事業・短期入所事業) なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業) 〒546-0035 大阪市東住吉区山坂5-11-21 電 話 6 6 9 9 - 8 7 3 1 F A X 6 6 9 9 - 8 1 3 4 訪問看護ステーション めぐみ (指定訪問看護事業) 電 話 6 6 9 9 - 8 8 5 5 F A X 6 6 9 9 - 8 8 5 6 ヘルパーステーション めぐみ (指定訪問介護事業) 電 話 7 5 0 6 - 9 2 2 3 F A X 6 6 9 9 - 8 8 5 6 〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16 大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関) あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業) ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業) 〒552-0004 大阪市港区夕風2-5-3 電 話 6 5 7 4 - 2 5 2 1 F A X 6 5 7 4 - 2 5 2 4	

おかげ様で近畿支局は今年開設50年を迎えます 社会福祉法人 NHK厚生文化事業団近畿支局 支局長 種 田 敦 志 〒540-0026 中央区内本町1-2-5 YSKビル8F 電 話 6 2 3 2 - 8 4 0 1 F A X 6 9 4 1 - 0 8 3 0	 社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会 理事長 石 田 易 司 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12番10号 電 話 0 6 - 6 7 6 7 - 9 9 8 1 ◇運営事業所一覧◇ 大阪市長居障がい者スポーツセンター 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター 大阪市更生療育センター ワークセンター中津 ワークセンター中授 ワークセンター千里 大阪市立此花作業指導所 ワークセンター粉浜 中津サテライトオフィス 大阪市立早川福祉会館 サテライト・オフィス平野 大阪市障がい者相談支援研修センター 大阪市職業指導センター 大阪市職業リハビリテーションセンター 大阪市障がい者就業・生活支援センター 大阪市発達障がい者支援センター [エルムおおさか] 大阪市立舞洲就労支援所	
社会福祉法人 一 隅 苑 理事長 和 田 偉 夫 我孫子地域在宅サービスステーション ・デイサービスセンター ・ホームヘルプセンター ・ケアプランセンター ・総合相談窓口（ランチ） 〒558-0013 大阪市住吉区我孫子東1-4-37 電 話 4 7 0 0 - 1 0 0 0 F A X 4 7 0 0 - 1 0 0 9	社会福祉法人 今 川 学 園 理事長 魚 住 誠 一 〒546-0003 大阪市東住吉区今川3-5-8 電 話 6 7 1 3 - 6 1 0 6 保育所・隣保館・子どもの家・ キンダーハイム・大和川園・今川の里・ ふれあいホーム・ハーモニ・ ワークセンターいまがわ	社会福祉法人 海の子学園 理事長 間 口 敦 生 〒552-0015 港区池島3-7-18 電 話 6 5 7 1 - 1 0 0 0 F A X 6 5 7 3 - 9 1 0 2 児童養護施設 入舟寮 児童養護施設 池島寮 病後児保育室 げんきっこホーム
 社会福祉法人 大阪自彊館 理事長 川 端 均 〒557-0014 大阪市西成区天下茶屋1-3-17 電 話 6 6 5 9 - 8 1 8 1 F A X 6 6 5 2 - 2 2 1 8 http://www.ojk.or.jp	社会福祉法人 大阪重症心身障害児者を支える会 理事長 寺 岡 富 子 〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町2-23-11 電 話 6 6 2 2 - 3 7 5 9 F A X 6 6 2 2 - 3 7 6 9 E-mail center@sasaeru.or.jp	社会福祉法人 大阪福祉事業財団 理事長 茨 木 範 宏 常務理事 山 本 政 幸 常務理事 勝 原 祐 子 事務局 桑 原 一 章 〒536-0001 大阪市城東区古市1-7-8 tel:06-6931-0098 fax:06-6933-1699 mail:since1948@zaidanosaka.or.jp HP:http://www.zaidanosaka.or.jp/
社会福祉法人 柿の木福祉の園 理事長 宮 川 ヒ サ 長居保育園 長居保育園乳児センター 長居子どもの家 長居西地域在宅サービスステーション ながいの里 居宅介護支援事業所 ながいの里 〒558-0004 大阪市住吉区長居東4-11-16 電話 6691-3669 FAX 6691-8292 http://www.kakinoki.or.jp	社会福祉法人 久栄会 理事長 岩 崎 久 直 〒544-0013 大阪市生野区巽中3-14-3 電 話 6 7 5 6 - 5 2 0 0 F A X 6 7 5 6 - 6 6 8 8 http://www.minori-en.com/	社会福祉法人 きれ福祉会 理事長 大久保 孝 障がい福祉サービス事業 就労継続支援B型事業所 ユーアンドアイ 居宅介護・重度訪問介護 サポートわっか 〒547-0025 平野区瓜破西1-8-45 電 話 6 7 9 9 - 5 1 1 2 F A X 6 7 9 9 - 5 1 1 3
社会福祉法人 高津学園 理事長 田 尻 達 朗 〒543-0017 天王寺区城南寺町1番10号 電 話 6 7 6 1 - 1 6 6 3 F A X 6 7 6 8 - 1 6 5 3 児童養護施設 高津学園 児童養護施設 報恩寮 障害児入所施設 法然寮 障害者支援施設 知恩寮（以上、天王寺区） 児童養護施設 信太学園（和泉市）	社会福祉法人 治 栄 会 理事長 大 森 秀 之 〒534-0027 大阪市都島区中野町5-10-70 電 話 4 2 5 3 - 8 0 5 5 F A X 4 2 5 3 - 8 0 6 6 http://www.jieikai.or.jp/	社会福祉法人 四 恩 学 園 理事長 中 西 裕 〒558-0011 大阪市住吉区荻田4-3-9 電話 6607-2220 FAX 6696-5347 ●乳児院・児童養護施設 ●幼児・乳児・夜間保育園 ●子どもの家（学童）・子育て支援センター ●地域密着型特別養護老人ホーム デイサービス・認知症デイサービス・ホームヘルプセンター 住吉区東地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・ 在宅介護支援センター http://shiongakuen.or.jp
社会福祉法人 四天王寺福祉事業団 理事長 瀧 藤 尊 淳 常務理事 塚 原 昭 人 常務理事 坂 本 峰 徳 〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1-11-18 電 話 6 7 7 1 - 7 9 7 1 F A X 6 7 7 1 - 8 9 6 1	社会福祉法人 晋栄福祉会 理事長 濱 田 和 則 〈鶴見区〉 茨田大宮ちどり 施設長 近藤 光 〈都島区〉 東野田ちどり保育園 園長 江川永里子 〈城東区〉 城東ちどり保育園 園長 敦子 〈東成区〉 大阪市立東中本保育所 所長 浅野 幸代 〈大正区〉 大阪市立北恩加島保育所 所長 西森 保子 〈北区〉 中之島ちどり保育園 園長 小林 操 〈中央区〉 御堂筋本町ちどり保育園 園長 増田 小織 〈福島区〉 新福島ちどり保育園 園長 藤本麻里子	社会福祉法人 しんもり福祉会 理事長 松 野 五 郎 平和の子保育園 平和の子どもの家 らっこデイサービスセンター 大阪市立両国保育所 〒535-0022 大阪市旭区新森7-1-5 電話06-6954-0524 FAX06-6954-1961 heiwa-ko@vega.ocn.ne.jp http://www.shinmori-fukushikai.or.jp

社会福祉法人 水仙福祉会 理事長 松村 寛 〒533-0004 大阪市東淀川区小松1-13-21 電話 6328-3786 FAX 6328-3788 E-mail honbu@suisen.or.jp http://www.suisen.or.jp/	 社会福祉法人 スワンなにわ 誠意・信頼・感謝 社会福祉法人 スワンなにわ 理事長 樋口 恵光 認知症対応型通所介護 生活支援事業所 居宅介護支援事業所 児童デイサービス 有料老人ホーム 就労継続支援B型事業所 訪問介護 〒556-0026 大阪市浪速区浪速西2-11-6 電話 6562-0456 http://care-net.biz/27/swan/	社会福祉法人 聖家族の家 理事長 上利 久芳 〒546-0033 東住吉区南田辺4-5-2 電話 6699-7221 FAX 6699-7243 児童養護施設 聖家族の家 乳児院 聖母託児園 児童心理治療施設 児童院 E-mail holyfamily@luck.ocn.ne.jp
社会福祉法人 大念仏寺社会事業団 理事長 杉田 善久 〒547-0045 大阪市平野区平野上町1-7-3 電話 6791-5410 大念仏乳児院、ボ・ドーム大念仏、 ボ・ドーム、子どもの家「童夢」、 いちよう保育園、いちようベビーセンター、 ひらのドリーム園、南生野いちよう保育園、 ドレミ広場、タイガー・ダイヤモンドルーム	 社会福祉法人 尚和会 なのはなこども園 理事長 張 はる江 〒534-0023 大阪市都島区都島南通1-9-1 電話 6921-6818 FAX 6921-6819	社会福祉法人 なみはや福祉会 理事長 竹本 榮 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6761-3010 http://www.namihaya.or.jp
社会福祉法人 日本ライトハウス 理事長 橋本 照夫 〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2-4-37 電話 6961-5521 FAX 6968-2059 http://www.lighthouse.or.jp/	社会福祉法人 博愛社 理事長 長野 泰信 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72 電話 6301-0367 FAX 6301-5347 https://www.hakuaisha-welfare.net/	やさしさと思いやりのある介護 社会福祉法人 ビーナス福祉会 理事長 田村 文子 〒551-0003 大阪市大正区千島1-23-26 電話 6553-4800 FAX 6553-7771 http://www.venushome.jp/
 社会福祉法人 みおつくし福祉会 理事長 久保 直也 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6765-5611 FAX 6765-5614 http://www.miotsukushi.or.jp/	 社会福祉法人 みなと寮 理事長 大西 豊美 〒586-0052 河内長野市河合寺423番1 電話 0721-62-3700 FAX 0721-62-3711 http://www.minatoryo.or.jp/	社会福祉法人 都島友の会 理事長 渡久地 歌子 〒534-0021 大阪市都島区都島本通3-4-3 電話 6921-0321 FAX 6924-2055 http://www.miyakojima.or.jp
 あふれる笑顔 社会福祉法人 優心会 理事長 垣谷 隆太 ・介護老人福祉施設 ・通所介護 ・短期入所生活介護 ・居宅介護支援事業 〒547-0014 大阪市平野区長吉川辺3丁目2番3号 TEL:06-6700-8000 FAX:06-6700-8400 http://yuushinkai.or.jp	公益社団法人 大阪社会福祉士会 会長 前川 阿紀子 副会長 小矢 智恵子 〃 尾島 繁勝 〃 中本 勝也 〒542-0012 大阪市中央区谷町7-4-15 大阪府社会福祉会館内 電話 4304-2772 FAX 4304-2773 http://www.oacsw.or.jp	シルバーパワーで頑張ります 公益社団法人 大阪市シルバー人材センター 本部 城東区関目3-1-14 電話6931-0221 南部支部 天王寺区東高津町12-10 電話6765-6116 西部支部 西区立売堀4-10-18 電話6543-7011 北部支部 北区池田町1-50 電話6882-3830 訪問介護事業 城東区関目3-1-14 電話6180-1010 (本部事務所併設) http://www.osakasc.or.jp
 学校法人 田島学園(奈良東病院グループ) 近畿社会福祉専門学校 厚生労働大臣指定(介護福祉士養成校) 理事長 鉄村 俊夫 学校長 梶 豪司 〒534-0025 大阪市都島区片町1-5-13 大手前センチュリービル3階 電話 6136-1117 FAX 6136-1115 http://www.kinki-swc.ac.jp	印刷 × Web + α TOTAL COMMUNICATION 関西共同 株式会社 関西共同印刷所 http://www.kansai-kyodo.jp 大阪本社 〒531-0076 大阪市北区大淀中3丁目15-5 TEL 06-6453-2564(代) FAX 06-6452-4980 E-mail eigyo1@kansai-kyodo.co.jp	本年もよろしく お願いいたします

中央区 地域との新たなかわりを生む 「地域WEB勉強会」

新型コロナウイルス感染症の影響により地域活動が軒並み中止となり、人が顔を合わせて、ふれあう機会が制限されている。中央区社協は、オンラインをツールにした地域とのかかわりを考えていくために、8月から各地域会館を拠点として地域の会館と講師と区社協をリモー

トでつなぎ、「地域WEB勉強会」を開いている。

区社協・生活支援コーディネーターの大谷琴美さんは、「緊急事態宣言時ほど、外出自粛中の地域住民と情報交換や議論の場が必要だったのではないかと職員共通で認識していました。そこで、職員で分担し会館のWEB環境整備について全地域へ話を聞きに行きました。結果、地域に向くことが増え、WEBに関するだけでなく住民ニーズや想いを聞く機会になり、住民と今後の取組みを進めるきっかけになっています」と、勉強会開催に至るまでも「新たななかかわり」へと繋がる期待感を感じていた。

11月25日は、第2弾の地域WEB勉強会「コロナと医療の現状」がおこなわれた。講師は家庭医療専門医の寺内勇さん。寺

内さんの職場である寺内クリニックから発信し、クリニックと4拠点（参加者は玉造、渥美、芦池、御津、道仁の5地域）からオンラインで結ばれた。マスクの種類による感染防止効果の差や逼迫する大阪の医療機関の状況ほか、実際に熱が出たら「来院でなく電話連絡する」ことの大切さや、病院がコロナ感染者と非感染者のベッドをどのように分けているかなど、わずか15分ほどの間だが、役立つ情報がわかりやすく提供された。寺内さんは「何といても、3密を避け、手を洗い、屋内ではマスクをすることが大切」と締めくくった。

続いては双方のスタイルを活かした質疑応答。参加者は、テレビで得たコロナ情報の真偽から家庭での感染防止の悩みなど、思い思いの質問を投げかけ、講師は丁寧に答えた。画面越しに、他地域の様子や、質問する参加者の人柄が伝わり、拠点を超えて笑顔が広がった。

玉造校下社協の黒石力会長が経営する会社の一室で聴講した玉造地域の参加者は「医療関係者ならではの最新情報が聞けてよかった」「講座に参加して夫

のパソコンを触ってみようという気になった」と感想を話す。WEBを使った今後の地域活動については「リアルが一番だが、そのうち会議もWEBになるだろうから追いついていかなあかな」と地域福祉コーディネーターの高木義一さん。地域活動についてさまざまな情報を集め、この日も積極的に質問をしていた黒石会長は「失敗やトラブルも勉強のうち。やりながら考えたらいい。第3波第4波も覚悟の上で、工夫しながら活動を進めていきたい」と語った。

この日、玉造地域で勉強会をサポートした区社協・地域支援担当の中原沙江さんは「地域で、WEBを活かした取組みを進めていただければうれしい。職員が出向いていないに聞き取り、区社協全体でサポートさせていただきたい」と応援の姿勢を見せた。



リラックスした和やかな雰囲気聴講

住之江区 タブレット端末で 地域と区社協の情報共有を加速

住之江区社協では、地域と区社協の連携強化や、地域福祉活動におけるICT活用を進めるため、区社協と区内14地域の福祉会館にタブレット端末（iPad）を導入した。

使った旅行気分を味わう。メモ機能で絵を描く体験をした後、「実はこれ、メールアドレスを交換しなくても送り合えるんです」とAirDrop機能を紹介。即席で描かれた力作が会場内の全端末に瞬時に共有され、和気あいあいと盛りあがりながら便利機能を体感した。新たなツールに抵抗感や苦手意識が先行しないよう、楽しみながら慣れてほしいと、区社協で説明と体験の流れを組み立てたという。

11月18日の地区社協会長会での披露を経て、11月27日に開催された「あつたかネット連絡会」では、各地域の福祉会館を拠点に活動する「見守りあつたかネットコーディネーター」（ネットワーク推進員）が集まり、区社協職員らとともに、これから貸与されるタブレットの使い方を学んだ。

後半は、タブレットに搭載された「LINE WORKS」について説明。日頃から使っていたLINEの有料版で区社協と14地域がつながること、情報共有スピードが一気に加速することが期待できる。

「今日はタブレットを使って遊んでみましょう」と切り出したのは、区社協・地域支援担当の谷口文香さん。まずは「今年度はコロナで旅行も行けなかったですすね」とグループマップを

本格的な活用はこれからだ。Zoomでの会議、リモートでの合同研修のほか、サロン活動では動画共有サイトをプロジェクトで放映すれば、映画会やカラオケ大会もできる。災害時の区社協・地域間の連絡や、いずれば地域の見守りのツールにもなれば…と想像は膨らむ。



近距離でビデオ通話を練習

「こんな風に使ってみた！」という、新たな発見がこれから飛び交うことだろう。

港区 オンライン講演会でつながりや居場所の大切さを共に考える

港区社協は、11月27日にオンライン講演会「つながり合える地域 港（みんなと）」〜コロナ禍でなにが見えたか〜を開催した。講師は、社会活動家で、全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長の湯浅誠さん。

この日、東京の自宅から講演をおこなった湯浅さんと、港区から参加した地域活動者の想いがオンライン上でつながった。

湯浅さんは、こども食堂について「すべての人が立ち寄れる、みんなが集える地域の居場所」とし、コロナ禍で居場所の大切さがよりはっきりしたと話した。

緊急事態宣言下でも、全国のこども食堂の46%が食材や弁当



「どんな状況でもつながりつづけたこども食堂の活動が波を起こした」と湯浅さん

の配付等を実施したという。集って食事を提供するという本来のかたちとは異なっても、何らかの方法でつながりを保ち続けたこども食堂の活動を受けて、湯浅さんは「居場所とは、つながり続けようとする人のこと」と敬意を表した。

柔軟さをもつてつながり続けるこども食堂は、「つながり続けてくれる人」であり「ありのままにいられる場所、居場所」である。これは、無縁社会と呼ばれる現代で、生きづらさを抱えている人にも働きかけることができると結んだ。

区社協・見守り相談室の荻野和代さんは「これまで経験したことのない厳しい状況下で、誰もが立ち往生し戸惑う心に希望の光を射すようなお話でした。今回、会場での開催は感染者拡大を受け見送りましたが、初のオンライン講演会に挑戦し講師のお話をお届けできたことで、私たちもまた新たな一歩を踏み出したように思います」と話した。聴講者からも「明日からまた活動がんばる力がわいてきました」との声があり、つながりや居場所の大切さを共有する機会となった。

施設協 やりがいのある、福祉のええところ伝えます〜学校と施設のWEB懇談会の開催〜

大阪市社会事業施設協議会（以下、施設協）、大阪市福祉人材養成連絡協議会、市社協が共催で、福祉分野で学ぶ学生を対象に、福祉の魅力を伝えるために、昨年度から学校との懇談会を開催している。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、11月20日に初めてZoomを使用したオンライン形式で開催した。

懇談会は倉光慎二施設協会長のあいさつからはじまり、「コロナ禍で大変な中、学生のみなさんが福祉の仕事に興味を持ち、この懇談会に参加してくれたことはとても心強く、うれしく思う。オンラインでの開催と



15人の学生がそれぞれの場所から参加

なったが、それぞれの施設の魅力を伝えたい」と話した。

施設協加盟6団体各種別（児童・老人・保育・生活保護・地域・障がい）の説明がおこなわれた後、学生たちは自分が興味を持つ種別のブレイクアウトセッション（Zoom会議上でおこなう分科会）に参加した。参加した大学や専門学校の学生たち15人の質問に答えたのは、施設協加盟6団体から選出された各施設の勤務概ね10年未満の若手職員10人。学生たちと比較的年齢も近く、和やかな雰囲気での質疑応答がおこなわれた。施設の雰囲気や仕事の内容、「仕事をしていてうれしいことは何ですか?」「福祉の職場で働くために学生のうちにしておくべきことはありますか?」など、積極的に学生から投げかけられる質問に施設職員もひとつひとつ丁寧に答えた。

参加した施設職員は、



話が盛り上がり、時間が足りないほどだった

「学生のみなさんはよく勉強していると感じました。和やかな雰囲気でのいろいろな話ができ、福祉の仕事の魅力が伝わったと思います」と充実感を得た様子であった。学生からも「施設の職員の方と直接話しができ、福祉の仕事について具体的なイメージが湧いて、とても勉強になった」と感想が寄せられた。施設協・経営委員会の仲谷善弘委員長は、「時代は移り変わっていくが、福祉の思いは変わらない。変化に対応する社会福祉法人、施設でありたい」と会を締めくくった。

想いよ届け！Zoomで初の生配信！

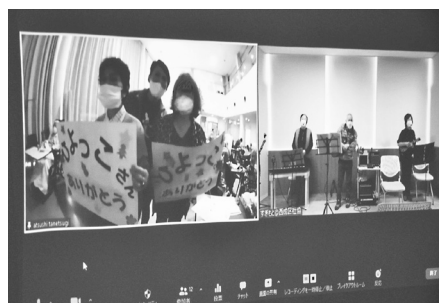
音楽ボランティアの生演奏

「聞こえますか？」「もう一回いきまーす」。12月15日午後、西成区社協の研修ルームから同区内の白寿苑デイサービスへ、ボランティアグループ「ひよっこ」による演奏が生配信された。初の試みとあって、ひよっこメンバーも、裏方の西成区社協職員らも、念入りに本番前のリハーサルを進めている。

「コロナ禍でカラオケもできず、外部からボランティアにも来てもらえず、閉塞感を感じている利用者の方や職員の方を元気づけようと企画しました」と地域支援担当の海野千冬さん。

「ひよっこ」は、2年前にボランティア活動で出会った仲間で結成。福祉施設や地域のイベントに出演している。レパートリーは、懐メロからアニソンまで約200曲。「リクエストに応えているうちに増えていった」という。「一に練習、二に練習」をモットーに週3回集合し、コロナ禍でも自主練習を欠かさなかった。

一方、区社協は、初の生配信を成功させるために、早くから情報を集め、音響や機材操作確認、受信側との調整など準備を重ねてきた。「部署を超えての協力



「ひよっこ」さん大歓迎の手作りボード

体制が心強かった」と海野さん。モニターに映し出された白寿苑デイサービスのフロアには、利用者手作りの応援ボード「ひよっこさん、ありがとう」がみえる。この日を心待ちにしていたようだ。

本番がスタート。ひよっこは、クリスマスソングを含む、全10曲をギター、キーボード、ウクレレで演奏した。緊張して誰かの声が出なくなると、自然に誰かがカバーする、日頃のチームワークがみてとれた。

モニターの白寿苑デイサービスでは、感染防止のため、一緒に歌うことこそできなかったが、手をふったり、リズムを刻んだりして、盛りあがっている様子。途中から港区在宅デイ

サービスセンターひまわりも参加し、さらに賑わった。それぞれの笑顔がつながり、楽しい時間を共有できたことが伝わってきた。また、社協職員や地域の子育て支援団体など、見学に来ていたギャラリイも大きな拍手を送った。

海野さんは「この取組みが成功したら、子育て支援やふれあい喫茶など、つながる先が無限にあります」。機材操作を担当した生活支援コーディネーターの杉本圭市さんは「他区でもこうした試みができるよう、ノウハウが学べる講座が広がってほしい」と話す。

リモート配信がスタンダードになる時代、地域福祉の新たなスタイルに確かな手応えを感じた取組みとなった。



左からひよっこの蓬澤さん、国吉さん、井田さん

市社協 理事会・評議員会開催

上半期の活動を報告

市社協は市立社会福祉センターで11月17日に理事会を、11月30日に評議員会を開催した。新たに理事候補者として住之江区社会福祉協議会の中野紀久雄会長及び大阪市地域女性団体協議会の前田葉子会長の2人を推薦し、選任された。また、評議員候補者として大正区社会福祉協議会の川上満会長及び浪速区社会福祉協議会の北口武司会長並びに城東区社会福祉協議会の高木正博会長、鶴見区社会福祉協議会の中田俊二会長の4人を推薦し、選任された。

新型コロナウイルス感染症に係る特例貸付事業の実施期間延長及び善意銀行への寄附金の収受に伴う令和2年度第2次補正予算(案)についても承認された。

令和2年4月1日から10月31日までの期間に係る会長及び常務理事の職務執行状況について報告した後に、特筆して報告する事項として、新型コロナウイルス感染症に係る本会の対応及び「第2期大阪市地域福祉活動推進計画」の

策定について事務局から報告した。新型コロナウイルス感染症に係る本会の対応については、冊子「コロナの中でもつながる方法」の作成や外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業を通して、少しでも住民の方々の不安が和らぎ、孤立を防ぐことができるよう、民生委員児童委員の方々とも協力しながら、地域のつながりを絶やさぬよう活動してきたことを報告した。生活福祉資金特例貸付・住居確保給付金の状況について、まだまだ不安定な状況が続いているが、困りごとにはしっかり向き合い、丁寧な対応・支援に取り組んでいきたいと報告した。

次に、「第2期大阪市地域福祉活動推進計画」の策定については、途中経過ではあるが、次期計画のポイントとして、地域共生社会の理念を踏まえることや市社協・24区社協の共通する思いや理念を具体的に推進していくような計画を予定していることを報告した。

「ゆうあいカフェへようこそ！」 地域サロンボランティア連絡会で模擬喫茶を体験

「ゆうあいカフェへようこそ！」の声とともにエプロン姿で地域サロンボランティアを出迎えたのは、天王寺区社協の職員だ。天王寺区在宅サービスセンターゆうあいで開催された

「ゆうあいカフェ」は、コロナ禍で活動休止が続いている地域サロンを、どうすればより安全安心に開催できるかを考えるきっかけとして、地域サロンボランティアに安全に配慮した模擬喫茶を体験してもらおうと区社協が企画したものだ。

模擬喫茶では、地域サロンボランティアが利用者役、ボランティア役に分かれて、受け付けから注文、配膳、厨房、片付けを体験。使いまわしや共用をしないですむように使い捨ての食器を準備し、お菓子は個包装のもの

のものをあらかじめセットしておいた。注文は個別の注文票を使用し、片付け後の消毒は台拭きを使わずペーパータオルを使用した。会場のテーブルも、各地域の会館の実情にあわせて検討できるように、対面式、壁向き、スクール形式の3種類を配置し、隣り合う席、向かい合う席にはアクリル板の仕切りを設置。それぞれの地域で再開する際のイメージづくりに役立ててもらうため、各コーナーごとに考えられる感染防止対策を準備した。

事前の研修では、冊子「コロナの中でもつながる方法」を使って勉強し、また体験当日も、感染しない・させないよう

に喫茶をおこなうためのヒト・モノ・場所の3つのポイントを

ていねいに確認した。コロナウイルスを必要以上に恐れずに、安全なサロン活動のあり方を考えてほしいとの思いからだ。

いつもは忙しく動き回っておもてなしをする側のボランティアが、利用者役になって他の地域のボランティアと並んでお茶を飲む時間は、互いの地域の情報を交換する場にもなった。

また今回の企画では、ドミノ・ピザの社会貢献活動により、無料でたくさんさんのピザが届いた。コロナ禍の影響で困難が続く中、地域福祉活動を応援する企業の心意気である。

区社協・地域支援担当の梶原有加さんは「再開に向けて感染が心配と言う声が聞かれるので、具体的にどんな方法だったら安心して再開できるかをイメージしやすいようにと模擬喫茶を体験していただきました。熱い想いを持ったボランティアさんたちをこれからも応援していきたい」と話した。

昭和にヒットしたある曲の歌詞に、「会えない時間が愛育てるのさ」というフレーズがある。会えない時間は本当に愛を育てるのか。「目を瞑れば君がいる」と強がって見たものの、どのような関係性であれ会いたい人には直接会いたいというのが人の心理だろう。

現在、新型コロナウイルスの蔓延により、人と人との物理的距離を取らざるを得ない状況にある。心理学の調査によると、物理的距離は心理的距離と比例するという結果が示されている。またJSTS S(※)は、未知の感染症の蔓延がさまざまなメンタルヘルス上の問題の要因となることを指摘する。不安、恐怖、隔離がもたらすストレス、社会的偏見と差別など、会えない状況をめぐる課題は多岐に渡る。

一方、現在は直接的に会わなくても、人と人との距離を近づけるツールも開発されている。画面越しに会うことは可能であるし、コミュニケーション

シオンを図ることも十分にできる。このような状況だからこそ、直接的でも間接的でも、「対話」はきわめて重要である。日常的な対話も、そして対立しているような場面においても、対話は重要なものである。

2020年10月、大阪市立大学(野村恭代研究室)と博報堂との共同による新たな対話型の住民合意形成プロセスが発表された。本プロセスは、ワークショップの開催とそこでの対話の実施により、「説得」ではなく対話による「共通理解」を促すことを目指す。対話を通じた共通理解は、コンフリクト場面のみならず、あらゆる場面における関係性の構築において有効なものである。

地域共生社会構築の観点からも、十分に時間をかけて対話を行い住民同士の信頼を醸成することにより、人と人とのつながりをより強固なものにすることが可能となる。

※日本トラウマティックストレス学会

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 准教授 野村 恭代

風をよむ

対話と関係性の構築

大阪の社会福祉 第788号 (毎月1回発行)

「大阪の社会福祉」は共同募金分配金を活用して発行しています。

11

はじめまして! こんにちは♪

認定NPO法人
グッドネーバース・ジャパン
NPO法人のご紹介 ▷ 69 ◁

お腹を満たし、こころを満たす子ども支援

グッドネーバース・ジャパンは、世界40か国以上において子どもの権利を守るために活動している国際NGOの日本法人です。2004年の設立以来、開発途上国で教育、医療・保健、水・衛生などの支援活動に取り組んできましたが、日本国内における子どもの貧困問題の深刻化を受け、2017年より国内事業を開始しました。

今、日本では7人に1人の子どもが相対的貧困状態にあります(2019年国民生活基礎調査)。豊かであるはずの日本において、貧困に苦しんでいる子ども達がいる。長らく子ども支援に取り組んできた団体として見過ごせない現実です。

そこで東京を拠点に開始したのが、フードバンク事業『グッドごはん』です。困窮するひとり親家庭を対象に、月に一回無償で食品を提供する活動です。生活



に欠かせない「食」を切り口に取り組む中で、日本の貧困の現実が見えてきました。とりわけ都市部の貧困は、「孤立」という問題が付随します。頼れる人が周りにいない、

助けを求められない、そんな孤独の中で子育てをするひとり親が少なくないのです。この状況は東京に限らないと考え、ひとり親が多い大都市のひとつである大阪でも事業を実施することになりました。

大阪での『グッドごはん』は、まさにコロナ禍での始動となりました。学校園の休業や経済活動の停滞により支援の需要は高まる一方で、開始から5カ月で利用登録者は約350名にのぼり、今も増え続けています。

食品配付は、単にお腹を満たすだけではありません。利用者からは、「支えてくれる人がいるということに救われた」という声が多く寄せられます。対面で食品をお渡しすることが難しい今、物資を配るだけで終わらないよう常に「非対面」でのコミュニケーションを大切にしています。食品に同梱する送付状やメールで、私達スタッフや支援者の皆様の気持ちを最大限に伝えます。そして利用者から寄せられた声も、支援者に届けます。食品配付を通して「一人じゃない」「助けを求めている」と伝え続けることが、親の負担を和らげ、子ども達の笑顔にもつながると信じています。

住 所: (大阪事務局) 〒546-0035
大阪市東住吉区山坂1-5-22-101
電 話: 03-6423-1768 HP: <https://www.gnjp.org/>
メール: gohan-osaka@gnjp.org

市社協 市を超えて オンラインで実践交流

「近畿ブロック政令指定都市社会福祉協議会生活支援コーディネーター実践交流会」が、12月4日にZoom上で開催され、京都市、神戸市、堺市、大阪市の生活支援コーディネーターら約70人が参加した(4市社協共催)。テーマは「ウィズコロナ社会におけるオンラインを活用した地域福祉活動の展開」。

冒頭、「好きなお鍋の具は？」のお題で、投票やチャット機能を使った全員参加型のアイスブレイクを体験。その後、中央区社協の取組み(8面掲載)紹介や、ブレイクアウトセッション機能を使ってグルー



手書きのフリップで「こんなことができるかも」を発表

プでの話し合いなどを通して、オンライン活用の可能性を深めた。この取組みは、12月19日に開催された近畿地域福祉学会の自由研究発表でも報告された。

今号ではオンライン活用の取組みを多数取りあげた。社協としては「対面か、オンラインか」の二者択一ではなく、対面を大切にしながらも、オンラインをツールに「つながり続ける」「新たににつながる」ことをめざして、今後も取組みを推進、発信していく。

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険 家・持ち物の保険 人の保険

www.ms-ins.com